

上条 報告

第3号

平成21年8月

甲州市教育委員会
☎32-1411

茅葺切妻造民家について

上条集落は「茅葺切妻造民家群」と称されています。

切妻造とは、屋根の両側が直に切られている形式です。屋根の正面を「平（ひら）」、両端を「妻（つま）」と呼び、「妻」を切り落としているから「切妻」です。

切妻屋根は全国各地にもありますが、屋根材として茅を使った切妻造となると、様子が変わってきます。

茅葺切妻造民家の分布は、全国で三カ所しかないといわれています。

一例目は、上条集落や甘草屋敷をはじめ、東山梨地区で広くみられる形式で、甲府盆地の東部に集中します

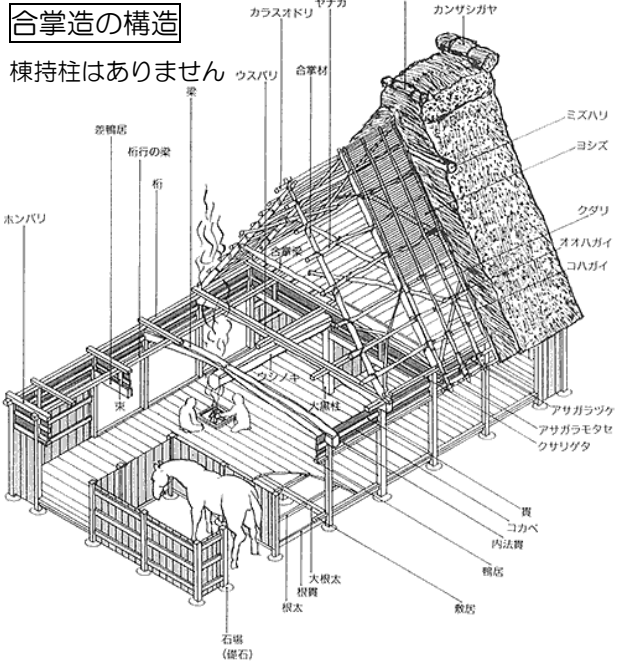
二例目は、岐阜県北部から富山県南部にかけて分布する、いわゆる「合掌造」といわれる形式です。合

掌造の代表的な集落である岐阜県白川村の荻町集落、富山県南砺市の菅沼集落・相倉集落は、世界遺産にも登録されており、世界的にも有名な建築群です。

三例目は、奈良県の奈良盆地に広く分布する「高塀造（大和棟）」という形式です。

切妻造民家の構造の違い

合掌造と高塀造は、屋根の合掌部分に二本の部材で山型に組み合わせた「又首（さす）」という構造をもちます。又首構造はシンプルなため、合掌造のような急勾配の大屋根でも、地区内の住民による互助組織（「ゆい」と呼ばれます）で造ることができました。これに対し甲州の切妻造は、「棟持柱」に桁と梁を組み合わせていきます。上条集落内の民家でも棟持柱はみられません。



上：合掌造（菅沼集落・世界遺産）
左：高塀造（大和棟）・屋根中央が茅葺で、妻側に瓦葺の屋根が付きま。防火のため茅と瓦を使い分けた形式です。

甲州の切妻造民家の不思議

―発生と広がり―

甲州における茅葺切妻造民家の分布は、先述の通り甲府盆地の東部に限られます。同じ時期の甲州各地の様子をみると、北巨摩や中巨摩地域では入母屋造、郡内や南巨摩地域では兜屋根などが一般的です。

なぜ、峡東地域にだけ切妻造民家が分布しているのでしょうか。

かつては、峡東地域の主産業だった養蚕と結びつけ、養蚕に適しているためといわれていたことがありましたが、養蚕が二階まで作業場となるほど盛んになるのは十八世紀の後半であり、いっぽう茅葺切妻造民家の最も古いものは十七世紀以前で、しかも二階の活用は考慮されていない構造であるため、養蚕と切妻造の発生とは、密接な関係があったとはいえません。

切妻造民家の発生と、かたよった分布については、まだまだ不明な点が多く解明されていません。でも、上条集落内の民家群のように、同じ地区（地域）に所在する複数の民家を比較検討することにより、いずれ明らかとなることでしょう。



甲州の民家

県内に保存されている、代表的な民家を紹介し
ます。紙面の関係で6棟しか掲載できませんで
したが、別号に続きを掲載します。

重要文化財 旧平田家住宅 平成元年9月2日指定

旧平田家は、現在郷土資料館の敷地に移築されているが、もと小淵沢町松向に所在した。平田家は松向村の名主を務めた旧家である。

年代は文献などがなく明らかでないが、家の由緒や建築の様式手法からみて江戸時代中期のもので、17世紀後半を降らないと推定される。

八ヶ岳南麓（北巨摩）地域に分布する、小さい破風をもつ入母屋造民家を代表するものである。

●北杜市小淵沢町小淵沢 7707 Tel.0551-36-2142 月曜日休館 見学料 200 円



重要文化財 安藤家住宅 昭和51年5月20日指定

安藤家の祖先は武田家の家臣で、元禄年間ころこのあたりに居を構え、江戸時代には代々名主を務めてきた。

主屋は大規模で材質・建築手法等が優れ、年代も棟札により宝永五年（1708）と古いことが判明している。桁行十二間半、梁間五間を測る。時代は新しくなるものの、長屋門・北蔵・南蔵などの附属屋が広大な宅地とともに保存され、江戸時代の豪農の家屋や屋敷構えを知る上で貴重なものである。

●南アルプス市西南湖 4302 Tel.055-284-4448 月曜日休館 見学料 120 円



重要文化財 門西家住宅 昭和39年5月29日指定

中世・近世に稼動した湯之奥金山（甲斐金山遺跡・中山金山）の入口に所在し、金山経営にあたった穴山梅雪の古文書が蔵されている。門西家の祖先はもと地侍であったが、江戸時代に帰農し、湯之奥村の名主を務めた。

住宅は桁行八間、梁間五間を測る。建築年代は17世紀末から18世紀初頭とみられ、古い時代の河内地域の民家としては規模が大きく、当家の格式と経済力がしのばれる。

●南巨摩郡身延町湯之奥 255 Tel.0556-36-1338 詳細は電話で確認を



重要文化財 星野家住宅 昭和51年5月20日指定

当家が所在する下花咲は甲州街道の宿場であり、星野家は下花咲宿の本陣および問屋を兼ねた家柄で、幕末には薬の商いも行っていた。また、明治天皇が明治13年に巡幸された際、御小休所とされた由緒をもつ。

19世紀前半の建築とみられ、桁行十二間、梁間八間を測る。東海道や中山道の大宿場本陣と比較すると小形だが、間取りは本陣の性質をよく示している。二階が養蚕のための作業場になっている点も興味深い。

●大月市大月町花咲 193 Tel.0554-22-0006 月曜日休館 見学料 400 円



重要文化財 八代家住宅 昭和51年5月20日指定

八代家は、代々この地の名主を勤めた旧家である。現在の住宅は、棟札によって文化五年（1808）に建てられたことが判る。良質の材料、整った意匠、そのうえ改造が少ないため保存もよく建築年代も明らかであって、山梨県下における江戸時代後期の民家を知るうえで貴重な建物である。

●北杜市明野町上手 1870 Tel.0551-25-2019（北杜市教育委員会）



山梨県指定 旧市川家住宅 平成8年11月7日指定

市川家の祖先は江戸時代に大庄屋・名主を勤め、寺を開創し新田開拓等を行い、地域に尽くしてきたため、「平の大家」と呼ばれた。また、富士川水運とも関係が深い。

住宅は桁行十一間、梁間五間を測る。聞き取りでは「平の大家の土間は富士川流しの舟が作れるほど広い」といわれるほど、この周辺では大規模な民家であった。古文書の記述から享和三年（1803）の建築と判る。年代が特定できる民家としても貴重なものである。

●南巨摩郡身延町和田 2857 Tel.0556-36-0011（身延町教育委員会）

